

「75 年のストーリーズ Caux のマジック」

はじめに ヤラ・ズゲイブ

「大きな変革をもたらす静かな時間」

太陽がレマン湖に沈む。コーのテラスから見ると、まるで燃えているように見える。空気は紫とオレンジ色。オレンジの香りもする。皮をむいて配られたばかりの果物だ。ここには、レバノン人、フランス人、スイス人、ドイツ人、イギリス人、インド人、モロッコ人、エチオピア人、ウクライナ人、そしてボブ・マーリーのギターを弾くオランダ系ハワイアン・パレスチナ人がいる。

私の右隣のテーブルでは、磁器のカップに入った冷めかけた 2 つのコーヒーを挟んで 2 人の男が向かい合って座っている。彼らは戦場から来た。彼らは少し前まで戦争をしていた。ここでは彼らはクリームを渡す。ここでは彼らは話さなければならない。彼らの間には、砂糖、プラム、パンがある。テーブルが彼らそれぞれの真実と私的な話できしむ。これまでのこと、心の痛み、偏見や恐れについて。

2010 年 6 月 25 日に私がここに来た時、私は難破船のような少女だった。

青い重いスーツケースを持って登山列車から降りた私は、怒りと疲れと悲嘆に暮れていた。私は 21 歳で、多くのものを失っていた。昼食もとっていなかったし、睡眠もあまりとっていなかった。期待もしていなかった。見知らぬ人が私を誰もいない食堂に連れて行き、サンドイッチを差し出した。

気がつくと、私は青い湖と青い空の間に宙づりになっていた。私は残りの 1 カ月間、何百人もの人々に食事を配膳した。私は、反乱軍、音楽家、学生、活動家、コーヒー豆農家、司祭、首長、女性の元副大統領とも食事をした。リネンをたたみ、皿を洗った。生まれて初めて私は静かな時間を持った。

私の心の中の戦争も静かになった。この場所は私に呼吸すること、他人をそして自分自身を理解することを教えてくれた。帰る頃には、モンルーに飛んでいけそうなほど身体が軽くなっていた。

しかし、私の物語は特別なものでも、私のものでもない。この会議場のものなのだ。私がこの文章を執筆している 2021 年はマウンテンハウスの 75 年周年にあたり、この 75 年の間には何十万人もの人が登山電車に乗り、散策をし、講演をし、お茶を飲み、話し合いをし、そして大きな変革をもたらした静かな時間が含まれている。

私達は 2021 年を通して、1946 年にイニシャティヴズ・オブ・チェンジ (MRA) が初めてここに集まって以来 75 周年を記念して、毎年 1 つずつここで起こった 75 の物語を共有しました。最初はオンラインで公開していましたが、今回は一冊の本にまとめました。

そうすることで、私たちは前を向き、そして天を仰ぎ、明るい将来を見据えます。

